

新武漢空港 中国四大空港に



3月4日、2年間の工期を終えて新武漢天河空港が完成しました。この新空港は中国中部地区最大級であることはもちろん、北京、上海、広州に次ぐ規模の空港です。今後10以上の国際路線、100以上の国内路線が新しく設定されることになっており、年間利用見込み旅客数は1,300万人と報じられています。

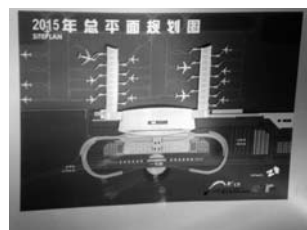
この新空港へは33.72億人民元（約530億円）が投資されました。ターミナルビルは11.6万㎡で旧空港の4倍の面積があります。A地区とB地区があり、それぞれ36のカウンターがあります。タラップが25万㎡、倉庫は2万㎡もあり、また、駐車場は3.8万㎡、自動車385台が収容可能で、別に570台分の駐輪場も完備しています。

また、新空港の完成は武漢経済への波及効果も絶大です。空港にほど近い場所に経済地区「盤龍城」があり、国内企業の進出が増えています。長虹、中体、三聯を始め60以上の国内トップ企業がこの経済地区に本部をつかっており、武漢の経済産業は今後ますます発展



するだろうと予測されます。市政府もこれを睨んで物流インフラの整備を行い、今後10年から15年で、空港を中心とする臨空経済地区の建設を決めています。

旧空港は内部整備の後、国際線、公用機、特別機専用の空港になる予定で、新旧のターミナルビルは連結廊下で結ばれることとなります。



更に今年度中に、第3空港も着工されます。空港の建築面積は60万㎡、投資額は200億元（3100億円）を超える見通しです。工期は3年から4年を予定しており、この第3空港が完成すると、年間利用客が3,500万～4,000万人と北京、上海、広州に並ぶ全国中枢空港の1つとなります。

